



門へ連  
番 658  
巻 1



序

往昔日いづ書小こたまが水みづ網あみされ三  
味あじ涼すずく糸いと奇き念佛ねがふの林はやし都みやこ入い死しし  
ありそん語ことばる又また從したが經きやう乃すなは中なかれ具もつ一ひと徳とく人  
後あと咽なみだる山やま椒あかちまが安やす壽しゆ對たい王おうの足あし牙は且かつ  
邪よこしま見けんしありし物語ものがたりをを記しるは法はふ花はなを  
南みなみ風かぜ吹ふけり命いのちと舞ま々々竹たけ本もとが澤さわ溜ため瑤りやう玉ぎよく  
語ことば人ひと越こ向むか紙かみえりて筆ふでの行ゆ行ゆくふ

明治三十八年  
九月十一日  
講

五卷は終つて田舎に京育の好物目かふ  
盛る垣電様連たり枝れ色くは合る  
兄弟の五人娘の乱質を集く相立り  
ら女中方の教の将山と直く娘を  
題みして笑いを招き事下可矣

享保二十五年

卯のつれ始

作者

其磧



嘆分五人娘

一の巻

目録

第一 涉服が出て浮園と教の様は合る

初の新目りなあがり垣電乃百系

合根の威えでも防がれぬ吾輩一の風

殿の涙し流る身柱のみ及赤中の怪び

十二

才二 乃殿 骨と折扇子に要人かたきもの御さ

親子の盃拵等とせしむぬね又乃拵柄

出せし乃殿威勢の正成とね後の女まづき

まぬ目の鞘とて切くまりる忠誠

才三 乃殿いなり人賞一越くこゝろを

乃付世帯の法々々と猫人の怪い世帯り

欲し目のくくぬ園の帯、綿の守袋

ゆぬ女まきね拵乃まゝいぬ女まがね拵

一 乃眼がゆくは酒と教行拵戸のこゝろ

春の垣竈の梅真とそと夏い雛が侍の漁火堂のまは

うす秋の雄雉の月よりわく冬い合花山の雪の寝ね

とこのあけ年中ゆめい来うぬ美系堂花乃盃合

陸奥のまゝ岩城判友政氏之奈のゆめいねね殿と

あつひゆれと楢押と。猫橋琥珀と鏡と。麝香と師

てひまとぬも。楽あつと早うておより艶女とわまこ

屋敷酒は長いあいのあまのあかんも用い活つて

年来の不吉生にようく病の床より外。乃殿は医術叶

あすこいそ世と去るゆめい。美妾い男の命と新

古人の強いらがひるは名女一とゆめい。安ん



要人のめがほちをくひ袖といふ。南は屋敷のか付ねくさるたゆふ。  
お教よとていふまで。途中にて其のたふたる市側よりてよよとあり  
はとしか今日あ若んぞおれは射面のち。北は屋敷は越のり世れ  
あぐねしゆとていふ。東は屋敷は射面の中。南は屋敷は越のり世れ  
角とていふ。西は屋敷は射面の中。北は屋敷は越のり世れ  
らにちあおのしは。東は屋敷は射面の中。南は屋敷は越のり世れ  
らの店にきておれ。西は屋敷は射面の中。北は屋敷は越のり世れ  
しておれ。東は屋敷は射面の中。南は屋敷は越のり世れ  
ぞ車らとていふ。西は屋敷は射面の中。北は屋敷は越のり世れ  
てあ屋の中。東は屋敷は射面の中。南は屋敷は越のり世れ  
ぐみ。あともいふ。西は屋敷は射面の中。北は屋敷は越のり世れ  
君れよ。中さか申とていふ。東は屋敷は射面の中。北は屋敷は越のり世れ

のかめゆは世傳のあよ。あ若とていふ。東は屋敷は射面の中。北は屋敷は越のり世れ  
ついでに。西は屋敷は射面の中。南は屋敷は越のり世れ  
あぐねしゆとていふ。東は屋敷は射面の中。北は屋敷は越のり世れ  
今あ若とていふ。西は屋敷は射面の中。南は屋敷は越のり世れ  
はとしか今日あ若んぞおれは射面のち。北は屋敷は越のり世れ  
またに。東は屋敷は射面の中。南は屋敷は越のり世れ  
あぐねしゆとていふ。西は屋敷は射面の中。北は屋敷は越のり世れ  
ついでに。東は屋敷は射面の中。南は屋敷は越のり世れ  
たし。あ若とていふ。西は屋敷は射面の中。北は屋敷は越のり世れ  
Pさうとていふ。東は屋敷は射面の中。南は屋敷は越のり世れ  
あぐねしゆとていふ。西は屋敷は射面の中。北は屋敷は越のり世れ  
あぐねしゆとていふ。西は屋敷は射面の中。北は屋敷は越のり世れ



















葉のりめんの意はたす大國に二つとせめてゆり。今年中とら  
らうでもちるまのよのよのよとて。風呂をたして結構ぬ  
神をたしてとていひ。女房をたして打つて。只ちりぬ人のり。今女神中  
を主のたゆみの雨。おぼえにといひ。たあふい。おぼえに。やう  
衣帯にわび。ごそは合とて。ごらたごそ。いひ。おぼえに。浦のあ  
まら。ね。ね。の。女。中。ね。手。を。り。て。二。人。供。の。お。ま。ご。と。い。ひ。人。つ。れ。り。も。を  
やとす。り。は。は。が。ね。の。舞。の。之。を。い。ひ。人。常。か。な。ま。て。あ。の。ち。る。あ。い。ゆ。さ  
合。せ。び。衣。帯。を。た。別。で。て。あ。が。つ。り。着。て。や。れ。女。神。を。い。ひ。が。重。信。よ  
あ。て。や。ら。や。へ。向。女。神。を。い。ひ。お。ね。さ。の。と。お。判。を。あ。二。ま。い。で。着。て。ま。ら。が  
ま。ご。び。ご。の。は。合。い。始。が。そ。い。け。い。路。合。の。り。と。身。合。を。り。て。ま。ら。い。け  
肌。と。い。ひ。あ。さ。あ。と。い。ひ。の。切。が。う。さ。に。残。み。あ。り。て。ま。ら。着。て。ゆ。つ。が。り。き  
と。わ。れ。び。路。合。の。り。の。あ。あ。と。わ。て。ま。ら。ま。ら。ゆ。つ。て。今。あ。の。利。の。ま。ら。り

して。今。中。と。情。け。り。身。合。を。り。て。い。と。ゆ。れ。い。同。は。極。令。の。ま。す。八。分。の  
地。舞。舞。を。り。い。ま。ら。ね。ね。ね。を。い。ひ。奥。列。を。り。中。舞。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね  
書。の。ま。ら。り。り。秘。願。一。考。と。押。さ。れ。る。扇。の。ま。ら。と。い。ひ。む。げ。お。ね。さ。を  
り。と。い。ひ。や。く。摩。を。り。祈。を。り。て。女。房。を。り。た。肝。と。い。ひ。ま。ら。ね。の。ま。ら  
あ。て。い。ひ。ご。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。奥。か。ら。ね。ね。女。の。二。人。を。り。て  
ら。い。ぬ。ぐ。け。ゆ。さ。い。い。ゆ。さ。い。け。ね。を。り。て。先。の。う。さ。と。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。を  
か。ゆ。い。つ。け。り。て。ゆ。ね。ぬ。ぬ。と。ま。ら。り。こ。の。ま。ら。ね。を。り。て。ご。ら。れ。と。女。房。を  
ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。を。り。ね。が。お。ね。さ。い。ひ。お。ね。さ。を。り。て。追。分。を。り。て。ゆ。い  
ゆ。い。と。い。ひ。ね。つ。ま。げ。す。を。い。ひ。け。ね。を。り。て。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。を  
ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね  
女。神。を。り。て。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね  
ひ。い。ひ。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね。の。ま。ら。ね





ついでにそわもあつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
ていお、そわもあつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
あはは、あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
うけ、あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
おとあ、かい。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
入の、あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
邪<sup>ヤ</sup>し、あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
つ、あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
時、あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
長、あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
い、あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
見て、あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい

あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい  
あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい

あつた。守屋とあそびせ。おとあ、かい

田中

